

エネフィス四国完成

ダイダン

ダイダンの四国支店が入る「エネフィス四国」(高松市)が完成した。100%以上の省エネルギーを達成した完全「ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)」。支店機能とZEBの情報発信拠点として活用する。18日に竣工式が行われ、北野晶平代表取締役会長や藤澤一郎社長らが出席し完成を祝った。

エネフィス四国は設計基準から消費エネルギーを54%削減するとともに、設置した太陽光発電設備で47%のエネルギーを創出し、合計101%のエネルギー削減を達成した。

施設は、同社がこれまで培ったZEB技術の知見をさらに発展させ、「BCP(事業継続計画)対策」と「ZEB技術の深化」を図りつつ、「快適性」と「経済性」が向上した次世代型建物を実現するをコンセプトに建設した。BCP対策の強化では、国土交通省が策定中のBCPガイドラインを参考に地震・津



直会であいさつする藤澤社長

エネルギー101%削減 ZEB情報発信拠点に

波対策を採用した。支店機能の維持・事業継続のための建築、設備の両面で対策を講じている。

ZEB技術の深化として、既にZEBに取り組んだ「エネフィス九州」での実績を生かした設計や技術を導入。このほか、基礎杭内に地中採熱

配管を設置した「地中熱利用」や、地中採熱から得られる中温冷水をスラブ内や外壁内の配管に送水する「躯体蓄熱」、送風・加熱機能を備えた空調など数々の最新技術を投入している。



鏡開きで竣工を祝った

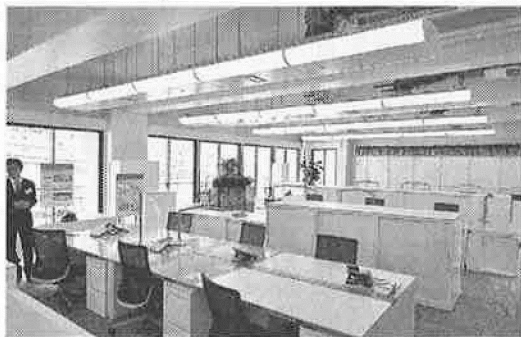


エネフィス四国外観

た。働き方改革やウェルネス(知的生産性の向上・健康増進など)に寄与する建築物を目指し、IoT(モノのインターネット)を活用した制御監視技術や、バイオフィリックデザイン(室内緑化による快適性の向上)を実現。経済面の向上では、従来のZEB実現に向けた設備費に比べて10%コストを抑えたという。

18日には定礎除幕式や神事、竣工披露式が行われた。その後の直会で、藤澤社長は「当社は、同業の中でもZEBにいち早く取り組み、さまざまな方面からも評価をされてきた。エネフィス四国は、これまで培ってきた従来のZEB技術にプラスして快適性を考慮し、IoTを活用した設備の自動制御などを導入するなど進化を遂げた。これらの技術を次のステップにもつなげていきたい」と述べた。

エネフィス四国の所在地は高松市本町6の17。建物規模はRC造3階建て延べ11168平方メートル。設計・施工はNTTファシリティーズ、四電エンジニアリング、ダイダンが担当。施工協力として共立建設が参画した。



省エネ性と快適性を両立したオフィス内